

兵庫県立八鹿高等学校改善プラン
創立 120 周年に向けた『STEP 1』構想図
～学びの「つながり」が見える骨太の学習指導・進路指導システム構築の試み～

専 攻 教育実践高度化専攻
コ ー ス 学校経営コース
学 籍 番 号 P10013C
氏 名 山本 宏治

兵庫県立八鹿高等学校は明治 30 年創立、本年度で連綿 115 年の歴史を伝える南但馬の伝統校である。戦前は農蚕学校として半世紀に及ぶ歴史を刻み、戦後は文武両道を旨に活気溢れる校風を伝える進学校として発展してきた。本プランでは、八鹿高校事件の後昭和 51 年に農業課程が独立してから今日までの成長過程と、生徒数減少の加速という今後の環境変化をふまえて、成熟した組織の再活性化と進学実績の一層の充実を両立させるための具体的方策について考察した。

第 1 章 改革エネルギーの鉱脈

戦前戦後の活気溢れる「農蚕八鹿」の姿を概観し、続いて昭和 51 年の農業課程独立から今日に至る 35 年間の成長過程を分析した。昭和 61 年の理数コース設置と平成 15 年の類型制導入という二つの改革の間に、ミドルリーダーの力を背景に学年集団が強力な指導を展開して実績を伸ばした時期があった。今日の成果と課題が組織の発展経路に規定されていることを示し、改革の着手点と推進力増幅のポイントについて考察した。

第 2 章 八鹿高校の現状と課題

アンケートでは 9 割の生徒が高校生活に充実感を感じており、最も力を入れているのは学習、続いて部活動である。しかし、進路決定を最大の関心事としながらも、学習習慣が定着していない生徒は年々増加し、成績上位層が減少している。

心の問題が原因の転退学者も毎年見られる。一方分掌組織の構造と意思決定の流れは、部署ごとに内部完結する業務遂行方式との親和性が強く、学校全体で効果を検証し協力して改善に取り組むサイクルの確立を阻害している。「目標の共有化と意思統一ができていない」という教職員の問題意識の広がり、これを裏付けている。教員個人の熱意や学年団の結束だけでは対応しきれない学力幅の拡大とニーズの多様化が起こり始めていることを共通理解し、危機が顕在化する前に改革に着手することが重要である。

第 3 章 今後の環境変化

学区再編と入学者選抜制度改革という環境変化をふまえて、但馬における公立高等学校経営の課題について考察した。但馬では県全体に比べて普通科の募集定員の割合が少ない。従って今後の学級減にあたっては、特に大学進学という進路を十分に保障するための各校の取組が極めて重要になる。また、「普通科への通学が事実上困難な地域」を生み出さない再編整備のビジョンも求められる。章の後半では、学区再編の先行事例からどのような示唆が得られるか分析を試みた。

第 4 章 改善プランの全体構想

八鹿高校のミッションは、夢や志を持って但馬から兵庫、日本、そして世界へと羽ばたき、医療・福祉・教育の充実や地域経済の活性化のために、

知識や技術や情熱を未来の但馬に還元できる生徒を育成することである。この社会的使命を果たすため、「学力向上」「人間性の陶冶」「地域創造」を中核とする五年間三段階のビジョンを描いた。

改革は生徒の現状を共通理解し危機感を共有することから始まる。まず、管理職と主幹教諭による経営戦略室を創設し、戦略的マネジメントの機能を強化する。教員の指導力向上の場を創設するとともに、プロジェクトを活用して組織のコミュニケーションの質的変容を促す。学校評価システムと広報戦略を充実させ、教育活動の内外への可視化を強力に推進する。

第一段階では、学習指導及び進路指導システムを系統性・継続性の強化という視点で改善・充実する。生徒の多様なニーズにとことん応えられるシステムを確立し、進路実績のさらなる向上をめざす。第二段階では主体性、倫理観、思いやりの心の育成を強化する。「生徒自治の復権」をキーワードに、伝統的な強みである特別活動及び課外活動の一層の充実を図る。体験活動を核とする心の教育の系統性を検証し、つながりのある三年計画を策定する。最終の第三段階では保護者、同窓生を核として地域との連携強化を図る。町づくりへの生徒の力の活用、但馬の未来と八鹿高校のあるべき姿を構想する教育フォーラムの開催など、学校と地域の「協働の場」を創出する。

第5章 『STEP1』 具体的改善方策の提案

本プランの中核と位置づける STEP1 の目標は「学習指導及び進路指導システムの系統性の強化」である。学力向上と進路実現のための「八高プラン」の確立をめざす。

まず、学校経営ビジョンの明確化と可視化を図るために「つながり」というキーワードを活用し、既存の情報提供媒体に加え校内掲示や校長だよ

り等で徹底して繰り返す。経営戦略室はデータに基づいて生徒や学校組織の現状と課題の共有化を図り、校務分掌の見直し、重点事項へのプロジェクト組織による対応、「教育活動のまとめと引継事項」をベースにした学校評価の改善方策等を提案、実行する。

進路指導システムの系統性の検証と学習指導システムの強化のためにプロジェクト組織を活用する。経営戦略室のマネジメントにより、進路関係行事の相互の関連性や時期の適切さの検証、個人指導記録の効果的かつ効率的な作成・管理と引継システムの確立、個人面談を充実させるための面談シート作成や研修会の実施、生徒の学習実態の全校的な定点観測、改善策提案型成績会議の実施、初任者及び若手を対象とした研修会の運営、授業公開週間の拡充、模試・入試問題研究会の実施、授業及び週末課題の年間指導計画の作成等に取り組む。

第6章 『STEP2』『STEP3』 展望

STEP2 では、伝統的な強みである特別活動及び課外活動を中心に生徒の自己有用感を高める場を充実させ、人間性の陶冶をめざす。生徒自治会執行部及び委員会組織の活性化、ホームルーム年間計画の見直し、体験活動の充実等、その柱となる取組の展開について記述した。

STEP3 では、地域創造に貢献できる八鹿高校をめざして関係機関等との連携強化を図る。「八鹿まちなか再生会議」を通じた町づくりへの生徒の力の活用策、創立120周年記念行事として同窓会との連携による教育フォーラム開催をめざす構想を提案した。

修学指導教員	大野裕己
指導教員	廣岡 徹